

貧困の中で生きる子どもたちに 多様な学びの機会を

特定非営利活動法人 ビーンズふくしま
子どもの貧困対策支援事業 事業長 山下 仁子

・ 生活困窮世帯の子どもたち

当法人が支援対象としている生活困窮世帯の子どもたちは、継続された貧困ゆえに複雑な家庭背景、劣悪な家庭環境の中で生きている子どもたちが多く、生きる力が低下した状態にある。

その結果、子どもたちは地域から孤立し、他者との交流機会が喪失され、自己肯定感の醸成が図れない状況にある。

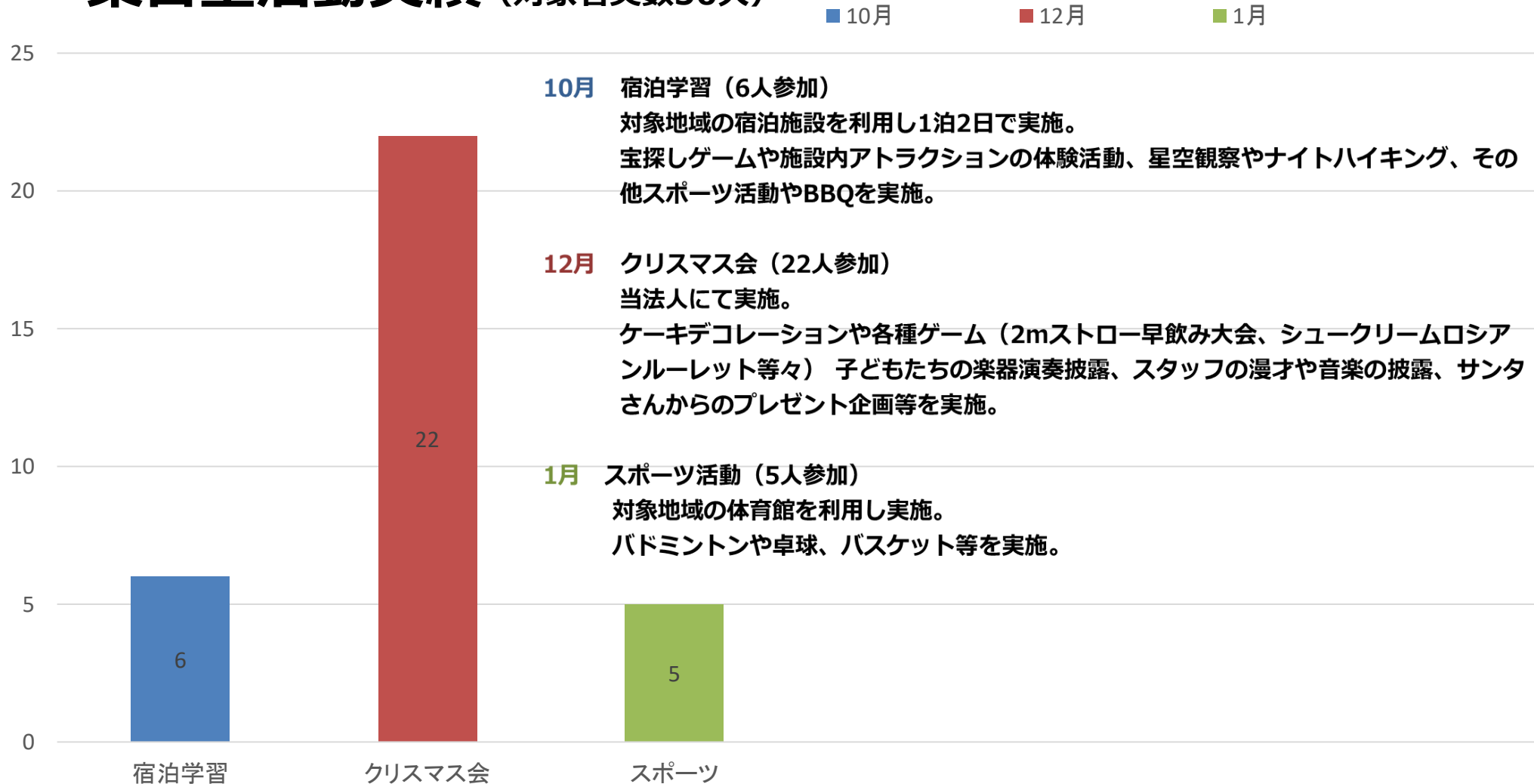
このような子どもたちが他者との交流を持ち、多様な学びから自己肯定感が養われ、自立へ向けた力をつけていくことを目的に、季節行事イベントや各種講座、体験学習や宿泊学習など多様な学びの機会を集合型活動として提供する。

・ 各関係機関担当部局、子ども支援団体等

当法人は、家庭訪問型支援を通し、子どもたちに支援を提供しているが、活動目標1に示した通り、子どもたちの多様な学びの機会を確保するため、集合型活動を実施している。

集合型活動の必要性、有効性を各関係機関や子ども支援団体と共有し、必要な地域資源の整備、拡充を目的とし、そのために必要な子ども支援方策やノウハウ等の共有を実施する。

集合型活動実績 (対象者実数50人)





スポーツ活動(バスケットボール)



宿泊学習(星空観察)



宿泊学習(宝探しゲーム)



クリスマス会

実施内容2

実施内容 (孤立改善・アウトリー チャー育成事業)	2018年 9月	10月	11月	12月	2019年 1月	2月	合計
各関係機関等を対象に、子どもたちや取り巻く家庭、地域環境の実状、抱える課題を共有し、課題解決に向けたケース共有やカンファレンス等の実施。	12回	9回	11回	8回	15回	12回	67回
子ども支援団体等を対象に、子ども支援に必要なノウハウを提供することを目的とした講演会やアウトリーチャーの育成等を目的とした研修会等の実施。	1回	4回	6回	2回	1回	6回	20回

実施内容1の成果と課題

【成果】

集合型活動を通し、子どもたちの孤立解消における到達目標を、完全孤立状態にある10ケースから7ケースまで減少、と設定しているのに対し、現段階で6ケースまで減少しており、達成率133%。

【課題】

社会接続が困難なケースに対して、アウトリーチ型の支援から集合型活動等を通して、社会接続の機会へと子どもたちをつなぐ人材育成が不十分である。より多くの子どもたちが多様な学びを通して社会に接続していくには、アウトリーチャーの育成、確保が大きな課題である。

実施内容2の成果と課題

【成果】

- ・各関係機関内で、ケース共有やカンファレンスの回数を重ねたことで、課題解決に向けた支援方針の統一が図れた。また、適切な支援提供を目的としたアセスマネジメントの必要性においても一定数の共通理解が図れた。
- ・研修会等の開催により、子ども支援に必要なノウハウの移管を目的に、より多くの他団体同士や官民一体の勉強会開催等について計画立案に至った。

【課題】

子どもたちやその取り巻く環境についての共有等の実施、子ども支援に必要なノウハウ等の研修会は実施でき、アウトリーチ型支援の必要性、有効性は浸透したが、アウトリーチ型支援の特性故に、各関係機関や子ども支援団体が普及できる体制整備に至っておらず、人材育成、人材確保が継続した課題となって顕在化した。

- 子ども支援に必要な地域資源拡充、人材育成・人材確保を目的とし、更なる関係機関との連携、研修会等の実施強化。
- 子ども支援政策担当部局への必要事業展開枠の提言。
- 行政政策と支援団体方策のすり合わせ。